



Nepal Blind Support Association

ネパールの視覚障害者を支える会(NBSA)会報

第29号 2011年1月

主内容:秋のスタディーツアー特集/活動報告/ネパールの詩/ネパールのニュース 2010年を振り返って/2011年はネパール観光年です/フェアトレードショップからのお知らせと事務局便り

NBSA : <http://NBSA.sakura.ne.jp/>

(本誌に掲載した写真はすべて許可を得ています)

思い出いっぱい2010年秋のスタディーツアー感想文集

8,000メートル級のエヴェレストが飛行機の窓から見えた。雲から頭を少し出した形で眼下に連なっていた。これが世界の最高峰かとありがたい気持ちになった。

藤原いと

カトマンズ市内は大都市だけあって街中、車やオートバイが所狭ましと走っている。ネパールはヒンズー教徒がほとんどで、牛を神の使いとして大事にしている。牛だけではなく生き物すべてと共存していて、殺生をしない国だ。だから犬やにわとり、ヤギなどがそこら中にある。

大型犬が路上に寝ていたりするが、車の方がよけて通る。犬に怒鳴ったり、たたいたりなどの暴力をしないから、犬の方も平気で路上で寝ているのだろう。子どもへの虐待もない



という。子ども同士のけんかでも、口けんかで絶対に手は出さない。貧乏なために捨てられる子どももいるが、誰かがご飯をあげている。だから貧しい国であっても子どもの餓死は少ない。ネパールは非暴力の国で、人にやさしいという印象を受けた。

パシュパティナートというところへ行った。川沿いに直径2メートルくらいの石の台が並び、河を挟んで亡くなった人をこの石の上で焼く。

寺院、老人施設、老人病院、ホスピスなどがあり、最後に火葬場へとつながる。公衆の面前だ。そして灰になったら川に流す。葬式もお墓もない。寺院には男性器と女性器の石の彫刻があちこちにある。人の生と死、そして再生をおだやかに受け入れている。

素晴らしいイラストを提供してくださったのは千葉県柏市在住の芸術家 藤原佐和美さん。題名は「シバ」:

永遠を見つめるシバ神の目に下界の生業はどう映っているのでしょうか…。彼女は膨大なインスピレーションを撒き散らし、風のようにネパールを去って行きました。

[さわみさんのホームページ] <http://yotsuchi-osc.sakura.ne.jp/index.htm>

NBSA（ネパールの視覚障がい者を支える会）を訪れた。設立8年目で、会長はプラダダさん、30歳。以前、ポコアポコ通信で彼の詩を紹介したことがある。彼が子どもの頃、少しずつ目が見えなくなりついに失明した時の絶望と、ネパールの美しい山、アンナプルナの思い出が書かれていた。彼は今教師をしているという。彼の丁寧な長いあいさつの後、20歳前後の視覚障がい者たち20人くらいが歌や踊りを見せてくれた。とにかく明るい。男女の掛け合い歌はおもしろかった。ある女性が男性に思いを即興で歌うとそれにこたえて男性が面白おかしく答える。そのやり取りが延々と続き、周りの人たちも合わせて歌ったりはやし立て、大爆笑になる。私たち日本人も日本の歌などを歌い、「しあわせなら手をたたこう」という歌を振りもつげながら一緒に歌った。言葉は通じなくても歌で何か通じ合った楽しい時間を過ごせた。



ポコアポコではネパールのNBSAから送られてきた商品、マフラーやバッグ、装飾品などをバザーで売り、その収益金の一部を還元し、わずかながらネパールの視覚障がい者を支えているが、今回の旅行で、障がい者施策のほとんどないネパールで、家にこもりがちの視覚障がい者への援助を今後の課題としよう、地方を廻ろうと言ったNBSAのメンバーに大きな希望を感じた。

（写真右上：事務所で踊る須磨子さん）

五回目のネパール 中山須磨子

輪廻転生を信じているネパールの人々。墓一基だにない。死を迎えると焼かれ川へと放たれる。なんとシンプルな一生ではないか。道を往く人、牛、犬、車、バイク皆一緒、同格なのだ。激しい往来のど真ん中で平然と犬が寝ている。犬を避けて車は往く。殺生はない。死刑もない。アジアで一番貧しい国だが餓死はないという。貧しい人がもっと貧しい人を助けるのだ。諦観を帯び、穏やかな表情が多い。そして子供たちの瞳は澄んでいる。不潔、貧困、ヒマラヤ…。また私はネパールを訪れている。今度で5回目である。

釈迦生誕の地を訪れて

今回初めて釈迦生誕の地であるルンビニへと足を伸ばした。インドに近い聖地へ向かう。凸凹道をバスで移動。行程8時間余。此処は温暖な気候で、気温が低い朝夕はすっかり霧に包まれてしまう。修行僧の寝泊りしているテント村から読経が流れ、托鉢に向かう僧衣が霧の中にぼんやりとしている。そうして小鳥の鳴き声。それだけである。此処はまるで彼岸のようだ。しばし陶然としていた。



紀行時の川柳

曼荼羅絵原風景の木守柿
止まれ時菩提樹の下半跏不座
托鉢へ向かう僧衣が霧の中
彼岸かな 小鳥の声と経の声
ヒマラヤを前に今日あること感謝

（写真左：釈迦生誕地 記念館）

思うこと 2, 3... 渥美寿夫

88歳の私にとってヒマラヤを望み見るラスト・チャンス、そして娘の暮らす国とNBSAの活動をこの目で...という旅でした。ネパールに足を踏み入れ先ず感じたことは、最近まで王制を巡って争っていたその痕跡が少しも無く、人々もあえて語らずの風でした。この国の人は順応性がある争いを好まないのでしょうか。街の広場や観光地では、黒い犬が点々とコの字になって昼寝？をしているのを見ます。人がソッと踏まないように通り抜ける そんな光景からネパール人の心根がうかがえます。また、NBSAの事務所や訪れた盲学校の生徒達に接し、負わされた境遇にもめげず、その素直さ明るさに胸を打たれました。ネパールはヒンズー教と仏教が混在しています。それぞれが神殿を、寺院を持ち、修行者を抱え行事を行い、そして観光客を集めます。相克はありません。見事なまでの調和 ネパールならではの ではないでしょうか。面白い国、空路さえよければもう一度、という気にも...

(写真左下：これまでのスタディーツア最高齢の寿夫さん。チベット仏教の若い修行僧に囲まれて。)



(写真右：左からポコアポコのいとさん、米寿を迎えた寿夫さん。ケアマネの須磨子さん。アーティストの佐和美さん。現地参加の渥美。)



行く先々でお仕事もしました

ネパール南部 お釈迦様(当時シッタルタ王子)が出家するまで暮らした居城があるカピルバスツウの盲学校を見学したときのはなし。

視力に障がいのある女性の自立を支援

お釈迦様の生誕地ルンビニから西へ50キロのところネパールガンジという街があります。そこに住むAさんと言う女性を助けてほしいという要望が当地の盲人協会からあがり、インタビューをすることになりました。Aさんは夜用足しに外に出た時に何者かにレイプされ、妊娠6ヶ月と云うことです。ネパールではいまだにトイレが普及していない地域がたくさんあります。Aさんの家のトイレは家屋からかなり遠いところにあるとのことでした。おなかの赤ちゃんのお父さんは皆目見当がつかないそうです。ネパールではこうしたケースがしばしばあるので、積極的に援助する気がなかったのですが、話を聞いてみるとAさんは大変過酷な人生を強いられていることがわかりました。

1. 視力に障がいがあり未就学
2. 女性であること
3. カーストが最も低いダリット (Untouchable) いわゆる不可触民

さて困った。南ネパールには貧しい人がたくさんいます。全員に援助の手を差し伸べることは不可能なので、彼女には一冬分の生活費6ヶ月分をNBSAが支給し、それから地域のコミュニティ

ーで彼女と赤ちゃんを見守ってくださいと言うことになりました。ところがアポイントをとった前日に彼女は流産してしまい、いずこへと出て行ったそうです。いたたまれなくなったのでしょうか。たぶん国境を越えてインドに行ってしまったものと思われます。

そこでネパールガンジに住む若い女性をサポートすることになりました。この方も未就学。これまで親戚縁者の家を点々として生きていました。彼女はもう成人。いつかは自立しなければならないでしょう。ローソク作りや編み物でもいい、何か収入に結びつく訓練が必要になってきました。私たちスタディーツアー参加者は、見学先のカピルバスツアーの視覚障がい児が学ぶ統合教育学校で彼女に会いました。インタビューをしたのはNBSA 経理担当で今回のツアーガイドのビソ君。ネパールガンジの盲人協会の人と車の中で面接と費用の交渉。結局カピルバスツアーの盲人協会とNBSAの折半。職業訓練が終わったら、地元のコミュニティーで努力してもらうことになりました。この件で藤原さんから自立支援金を賜りました。厚く御礼申し上げます。

註釈)ダリットについて。ヒンディーインドの4種姓(ヴァルナ)制の枠外に置かれた最下層身分。彼らは穢れた者と見なされていてまだに差別を受けています。ガンディーはカースト差別撤廃を目指しハリジャン(神の子)と名づけました。

ボカラのアマルシンハ統合教育学校を視察しました

スタディーツアー一行は、ぼこぼこのハイウェイをおよそ8時間かけてアンナプルナ連峰の麓のリゾート都市ボカラに到着。その日はみんな疲れてバタンキュー。ネパールで1番大きい湖、フェワタルほとりの日本食レストラン古都で夕食。おかゆと雑炊組約2名。今日はちょっと飛ばしすぎたかな?翌日はネパールで一番古い盲学級のあるアマルシンハ学校を見学に行きました。ここはいつ来ても感動してしまいます。あいにくヒマラヤが見えませんでした。この時期はたいてい広い校内の原っぱからアンナプルナ連峰がどんどんと見えるのです。



そして子どもたちがとってものびのびしている。当日は50名以上の学童が中庭に大きなビニールシートを敷き、すっかり準備を整え、キラキラ輝く子どもたちがところ狭ましと押し合いへし合いして、私たちが待っていました。

まずは歓迎の歌の披露。こちらはお馴染みの「幸せなら手を叩こう」で応戦。でも人数不足で子ども組の方がずっと引き立っていました。歌も太鼓も手風琴も上手。

みんなのびのび。すくすくのびのび。「お~い、早く大きくな~れ!」と応援したくなりました。子どもたちが可愛い!中山、藤原またしても涙、涙。

さて、渥美とビソは学校の様子を観察してきました。寄宿舍はやや狭いのですが、清潔で、ある程度プライバシーが守られるほどのスペース。調理は高学年の女子も参加させている様子。また、低学年から食器洗い、衣類の洗濯などをさせ、自立に向けた訓練も行っている。教育資材も充実している様子で、NBSA発行の点字情報誌タッチもちゃんと郵送されていることを確認しました。ま

た、スタディーツアー参加者の方々から、アマルシンハ学校への育英資金を賜りました。厚く御礼申し上げます。

地活動報告

10月： トーキングブック事業

本を読み上げてくれるボランティア不足が続いて、本当に困っていたのですが、ぼちぼち戻ってきました。様々な人にボランティアを体験してもらいたいのですが、現地のNBSA利用者は高校生以上が多いので、ボランティアも大学レベル以上の人で多少の英語力とコンピューター操作ができる人でないと勤まりません。またNBSAは歩行の補助ボランティアも養成していて、主婦が数人登録しています。この方たちは皆すごく親切で評判がよいのですが、リーディングには不向きなようです。様々な困難がありますが、NBSAはネパール国内では最大のトーキングブックの蔵書をもつ団体です。点字情報誌同様廃刊することはできません。今後も頑張っって音訳本の作成を続けていきます。未長く応援してください。

点字情報誌事業

またしても機械の故障の話題で恐縮ですが、点字印刷機がいまだにスムーズに使えません。思い切っって点字機械の修理と共にソフトウェアも交換しました。点字タイピストは現役の盲学校の先生、そして作成と配送を担当している私。共々50を過ぎたオバちゃんコンビで、ちょっと新しい技術が入るとすかさずオタオタしてしまいます。こうしたわけで大幅に遅れてしまい、点字誌タッチの配送は大型連休明けになってしまいました。この部門はとても地味な仕事なので若いボランティアは興味を示さない。どなたか応援に来てもらえませんか。

11月： トーキングブック事業

先月号でお伝えしましたが、朗読ボランティアがぼちぼちと戻ってきた感じで、定期的にリーディングをしてもらえるようになりました。ひとり大変ユニークな女の子が熱心に通ってきてくれます。彼女のあだ名はゲラゲラちゃん。何を見ても大笑い！箸が転んでもおかしい年頃なのでしょね。

12月： 点字の情報誌タッチ

主に障がい者のムーブメントやイベントなどを編集した隔月誌は点字印刷機の故障により長期間発行ができませんでしたが、やっと修復の目途が立ち12月17日に発送できました。嗚呼、ホントに涙が出るほど嬉しかった！

そのほか12月は多彩な行事を行いました。

12月3日 国際障がい者デーのパレードと記念式典に参加。

NBSAボランティアの参加は少なかったのですが、役員のほとんどが参加し他団体との交流も深めました。今年のスローガンは、2000年に宣言された琵琶湖プレニウムを2020年までに完成を！とのことでしたが、少々マンネリモードで覇気が感じられませんでした。若者の参加者がかなり減ってしまい、私にはなんだか高齢者の集いのようで少し寂しい気がしました。また、集会でのスピーチはマオイスト派の独壇場で、少々非難の声が上がったようです。

12月4日 国際ボランティアデーを祝いました。本来は12月5日ですが、今年は都合により1日繰り上げました。ネパールの餃子モモをカトマンドゥ市内の中華料理の店、香港レストランに出前を注文。ボランティアの皆さんとおいしく頂きました。「今年もご協力ありがとうございました。」

来年もどうぞよろしく。」と会長のプララダ・タパが簡単な挨拶を述べました。NBSA のボランティアが減少傾向にあり危惧されています。来年は新人ボランティアの育成に力を入れる予定です。



(写真左：国際障がい者の日パレードのテープカット 右：レディースのメイクアップ講座)

12月25日 特別事業 女性のためのメイクアップ講座とサリーの着付け教室開催。メイクアップ講座はこれで3回目。女性が一番喜ぶプログラムです。講師はNBSAで3年前からボランティアをしてくれているサビナさん。彼女は社会学科の学生ですが、同時に美容も学んでいます。とても静かな人ですが、懇切丁寧に指導をしてくれました。

また、日本の文化の紹介としてJICAネパールの海外協力隊員の方々数名が折り紙を教えてくださいました。皆さんネパール語が達者。参加者は外国の人に接する機会があまりないので、とても喜んでくれました。

さて、開会の挨拶をする予定だった女性副会長が当日欠席。これは困ったと思いきや、1番若い役員のディーパクさん(男性)が奥さんの引率で会場に来ていたので、彼にスピーチをお願いしました。まさに黒一点。あとは全部女性陣。どんな話をするのか見当がつかなかったのですが、ものすごく上手に場をつなぎました。

「女子学生の皆さん。エチケットとは何でしょう？あなた方と対面するとき相手によい印象を与えるためには清潔で、また大人としての身だしなみを心得た人であることが大切です。我々男性は、就職試験のときにはシワひとつ無く真っ白なワイシャツを着て出かけます。女性とて同じ。成人した女性の証としてそれなりの身だしなみが必要なのです。NBSAは女性の自立訓練の一環としてこの講座を企画しました。本日はぜひ頑張ってお化粧品とサリーの着付けを習得してください」とのこと。台本もなくよくまあ、即興ですらすらと...と、ひたすら感心。



ところで、サリーって世界の衣服の中でも特に着るのがむずかしい服です。

何しろ一か所もカットがない1枚の布を腰に巻きつけ、最後は後ろから正面にたらし、ずり落ちないようにおなかに押し込む。仕立屋さん要らずの衣類。デザインが単調なのでド派手なカラーが多い。それでも足りない場合はサリーの布地に刺繍やスパンコールを縫いこむ。でもその裁縫が下手。夜、皆さんが帰った事務所に入ってみるとはがれたスパンコールが、あちこち星のように散らばっていました。



新企画 ネパールの詩 遠い声 ドルガ ラール シュレスタ選詩集

詩の時代背景

15世紀、マッラ王朝時代。この時代がまさにネワール語とネワール文学の全盛期だったと言えます。ネワール文化の華やかなこの時代に王族達はこぞって詩歌や演劇に力を入れ、ネワール文学の発展に大きな役割を果たしました。

しかし、1768年シャー王家が権力の座についてから、カトマンドゥ盆地の政治状況は一変。シャー王家はそれまで分立共存していた各地域の支配者達を制圧し、強力な統一国家づくりに向けて激しい内戦を繰り広げました。政治のみならず言語においても、マッラ王朝のもとで花開いたネワール語はシャー王家の出身民族の言語に取って替われ、以後衰退の一途を辿ることとなります。さらにその後1846年からラナ独裁政権が台頭すると、ネパールの国は鎖国体制のもと暗黒の時代を迎えます。社会生活のすべてが冷酷な搾取と抑圧に覆い尽くされていく中で、ネワールの文学的活動は地下へと追い込まれていきました。

1950～1951年にかけて、長く続いたラナ独裁政権打倒を叫ぶ大規模な反乱が全国規模で起こり、ついにラナ家は政権の座から追われました。自由の新しい波は一気に広がり、この革新的変化のうねりに乗ってネワール文学においても個性的な新進作家が続々と登場。スタイルにおいても内容においても、これまでにない独自の作品が生まれて、ネワール文学に第二のルネッサンスをもたらしたのです。

文学運動と民主主義をめざす民衆の社会運動は一体のものとして進められ、若手の詩人や作家達はある意味ではこの運動の最前線を担っていました。彼等の自由を求める力強い合唱の中でもひとときわよく響く声、それがドルガ ラール シュレスタだったと 当時を知る人々は回想しています。

しかし、民衆の自由への夢は再び裏切られます。その後も権力抗争が繰り返され 不安定な政情が続きました。国民の生活が窮乏し、それが新たな反政府運動に発展し、1989年には市民を巻き込んだ大衆決起に至ったのです。最終的には1990年に民主憲法を勝ち取り、議会制民主主義がスタートしたのですが、1年にも及ぶこの苦しい戦いの中で多数の犠牲者を出したことは、人々の心に深い傷跡を残すこととなりました。

今世紀に入ってから政府とマオイスト、ネパール共産主義勢力の攻防が表面化し、国民の間に不安が広がりつつありましたが、まさにそんな時期に人心を震撼させる大事件が起こったのです。2001年6月。世界を驚かせたネパール国王一家殺害事件は、様々な憶測が飛び交いましたが、真相は闇の中で、国民は複雑な思いのまま、口を閉ざしています。ドルガ ラール シュレスタはこのニュースを聞いた瞬間、その衝撃をこう表現しています。

この時

あれほどにも偉大で輝かしい王の栄光が
目に見えぬほどの小さな針の穴に
一瞬にして滑り込んでしまった

信じられないその現実を
私はこの眼で見てしまったのだ

浪漫詩人である彼はまた、この半世紀に及ぶネパールの激動の歴史と民衆の声なき声を代弁する「時代の語り部」でもあります。かつてこの国の文化の中心を担ったネワール文学において 彼は最後の砦を今なお堅持しています。彼の作品が人々の心の奥深く生き続ける限り、ネワール語とその根底にある民族の魂も失われることはないでしょう 藤井 正子

以下 ドルガ ラール シュレスタ選詩集 遠い声 より2編

ギャン アラー

ずっと昔 この中庭に
老いた大工が住んでいた
名前は ギャンアラー

彼は暦であり 時計であり
季節を知らせる先触れでもあった

朝になれば歌声が聞こえ
彼の槌とノミが時を刻む
過ぎ去った昔がよみがえる時
深い憧れが心を満たす

涼しげな彼の歌声で
この中庭は水を浴びたように清々しく
言葉にできないその日の辛さも
ほんの束の間 忘れていられた

あゝ 時は私を この孤独な
見知らぬ世界に投げ込んだ

ここは時おり 昔の友が
むせび泣きながら 私を探しに来る
1968

第六感

月の無い夜
静まりかえった黒い海を
雄鶏の声が渡ってきた
ふっと霊の気配がし
微風のように私にしりのび寄った

まさにその時
あなたのそばで犬が吠え
かろうじてその静寂が破られた

おそらく犬の第六感は見抜いたのだ
私自身が霊となり
あなたの中に忍び込んだ その事実を

1964

ネパールのニュース 2010年を振り返って

混乱を極めたネパールの政界 2010年は首相不在のまま新年を迎えました
3月 政治君主制の立役者 2010年3月20日ネパール コイララ首相が死去。
翌21日を休日にするると共に3日間の半旗 葬儀は21日国葬の待遇を持って挙行された。1950年代から兄B Pコイララと共にネパールに一般選挙制の導入の活動を展開。幾度も投獄されながらも政治の民主化の基礎を築いた立役者のひとりであった。

5月 不発に終わったマオイスト派のメーデー & 5日間ゼネスト
金を大量にばら撒き、地方から党员やシンパを動員。首都カトマンドゥの市民から闘争費と宿泊場を強制的に提供させ、この間すべての車両はストップ。これでは職場にも行けないと反感をかい一週間ゼネストを5日目に解除した。

6月 マオイスト派よる5月ゼネストの収支策として挙げられていたマダブ ネパール首相の辞任が、当月30日になっていきなり行われた。そこで通常7月の会計年度が3ヶ月以上遅れた。

11月 マオ派分裂か？ 1週間にわたりマオイスト派の党大会開催
大国インドのマオイスト派との調整を巡り、マオイスト党内で3つの派閥化が顕著になった。皆さん武器を隠し持っているそうで荒れると怖いし、大国インドを敵に回すとかなりやっかいにそう。

経済 対インド輸出が大幅に減少 遅ればせながら経済危機の影響が顕著化した。食用油、ガス、野菜、米価60%以上値上がり。庶民は食うに困る状況が続いている。

世相 誘拐事件多発。昨年度はかなり悪質な子どもの誘拐が多発した。特に南部ネパールに多く、犯人はインド人ギャングのせいにしてているが、政治がらみとの見解もあり子どもがかわいそう。

音楽 ベストミュージック大賞に選ばれたのがアショタ パンタさんのラブソング。歌唱力あり文句なしの一等賞。

映画 ベストムービー 今年はずばり無し。景気の低迷からお金のかかる映画は一切作れず、インターネットカフェなどのレンタルCD屋のインドムービーはヒット。

スポーツ ネパール勢アジア競技大会で活躍
ボクシング 銅メダル、女子サッカー2位。サッカーは大躍進、がんばれネパール。今後の成長が楽しみです。

ギネスブック 世界一最小の男 18歳の誕生日を迎えギネス認定 10月15日
ネパール中部ポカラでのピナヤ グルアチャリさんが、世界で最も身長が低い男としてギネス世界記録に正式に認められた。ネパールではなぜか新聞のトップ記事になった。(ネパール安泰の証拠?)

破廉恥 乱暴者のパラス元皇太子逮捕される
南部チトワンにあるリゾート地で、家族で静養していたスジャタ コイララ外務大臣兼副首相娘婿に対し同じく滞在していたパラス前皇太子が口論から空に向かって発砲した。理由は明らかではないが警察は前皇太子を拘束した。しかし、4日後1万ルピーの罰金で釈放した。(どうせなら1億ルピーにすればよかったのに。旧王族の資産はどのくらいなのでしょうね)

コミュニケーション 携帯利用者100万人突破 山国ネパールでの必需品になりつつある。ついでに村落の太陽電気開発も夢ではない!がんばれネパール!
以上でした。2011年は明るい年になるよう祈りましょう。

2011年はネパールの観光年です カトマンドゥ市内で盛大なパレード開催

あっそう言えばあ、そんな話あったけ...。庶民には縁遠いトレッキングや飛行機での旅行、そしてマウンテンフライト。ネパールの外貨獲得ランキングNo.1は何と云っても国外出稼ぎ。穀物や電気などのインド輸出。何と云っても世界



最高峰のエベレストがある国なのにインフラ不整備につき、なかなか来てももらえないんですね...。でも10年前のような王室殺害事件、マオイスト派の勃興とか市民を巻き込んだ民主化闘争など、超大きな変革は2011年に起こりそうもないようです。

<カトマンドゥ・フォトギャラリー： おっ、これは珍しい!スワヤンブーで見た砂曼荼羅>

国連武器監視団 (UNMIN) が1月14日任務を終了し撤退しました。それをどのように捉えるか、専門家でなければわからないかも知れませんが、ここ数ヶ月は新内閣の成立にネパールの政治は大きく揺れる可能性があると言えます。政権の新旧交代劇、マオイスト派の内部分裂、旧国王軍とマオイスト派の軍隊をどう処理するのか、本来ならシビアな問題が山積み。ある意味苦を苦と感じないネパールの人たちって立派!観光産業いまひとつ。がんばれネパール。



フェアトレードショップからのお知らせ

今年も巡ってきました ふかふか柔らかパシュミナの季節 寒いときはコレ！

NBSAでは、千葉県柏市の視覚障がい者を中心とする障害者サポート小規模作業所ポコアポコに、ネパールの民芸品やおしゃれグッズの販売をお願いしています。ポコアポコのスタッフはすごく協力的。季節や流行に合わせたネパール製品を作業所内ばかりでなく、バザーなどでも積極的に販売してくれます。ポコアポコは本当にNBSAの心強い助っ人。今年爆発的に流行しているカラフルでエキゾチックなスカーフやショールが好評を得ています。そして10月からはネパール特産のパシュミナのストールやマフラーが並びました。また定番のネパール紅茶や、ヒマラヤの岩塩も人気者。ぜひ一度ご訪問ください。収益はNBSAに還元されます。たくさん買ってくださーいね。ご協力のほどお願いします。

住所：千葉県柏市 松葉町 6 - 8 - 1

問い合わせ：ポコアポコ作業所 (電) 04-7136-0505

事務局便り

明けましておめでとうございます。謹んで新春のお喜びを申し上げます。会員の皆様におかれましては健やかに素晴らしい新年をお迎えのことと存じ上げます。昨年を振り返りますと、長引く景気の低迷、見通しの付かない政治の混迷、そして緊迫する朝鮮半島情勢と、正に厳しく激動の年だったように思われます。そうした中で、NBSAの活動には明るい兆しも感じられます。その一つは、渥美さんのご努力と現地役員の意識改革によって、現地の活動が周囲の人々を巻き込んで、次第に自立の方向に向かいつつあるように感じる事です。もう一つは、初めての試みとして「スタディツアー」が実施されたことです。事務局が千葉に移り最初ともあって、宣伝不足のためか、参加者の少なかったことが悔やまれますが、日本の支援者と現地の当事者の橋渡しに繋がる可能性を秘めた、将来への夢を予感させる重要な企画と考えています。

今年こそ皆で応援して、是非、この「スタディツアー」を成功させようではありませんか。新年に当たり、皆様のご多幸とNBSAの益々の充実を祈念します。 日本事務局 高梨 憲司

ネットニュースのご紹介

月1回配信のNBSA ネットニュースはネパール現地の活動報告のほか、ネパール関連の様々なニュースを掲載しています。特に「時のネパール」はネパールの政情を掲載し渡航状況を知る上で便利。

ホームページ NBSA：<http://NBSA.sakura.ne.jp/>。

ネットニュース毎月の配信をご希望の方は直接カトマンドゥ事務所インターネットでお申し込みください。yorikonepal@hotmail.com / NBSA@mail.com.np

Nepal Blind Support Association (NBSA)

P.O.Box:8974 PCN-111 Katmandu Nepal Tel:977-1-4436-103

E-mail: yorikonepal@hotmail.com または NBSA@mail.com.np

日本の事務局:

〒284-0005 千葉県四街道市四街道 1-9-3 視覚障がい者総合支援センターちば内 NBSA

電話:043-424-2501 Fax:043-424-2486 事務局担当者 高梨 憲司

NBSA HP:<http://NBSA.sakura.ne.jp/>

維持会費：個人会員年間 6,000 円/協力会員年間 3,000 円/法人会員年間 15,000 円

振込先：口座記号番号 00190-7-762775 (ネパールの視覚障害者を支える会)